

平成 16 年 3 月期 第 1 四半期業績の概況（連結）

平成 15 年 8 月 7 日

上場会社名 **東日本旅客鉄道株式会社**

上場取引所 東 大 名

コード番号 9020

(URL <http://www.jreast.co.jp/>)

問合せ先 代表者役職・氏名 代表取締役社長 大塚 陸毅

(TEL : (03)-5334-1300)

責任者役職・氏名 広報部長 井上 進

1. 四半期業績の概況の作成等に係る事項

会計処理の方法の最近連結会計年度における認識の方法との相違の有無 : 無

連結及び持分法の適用範囲の異動の状況 : 平成 15 年 3 月期比 連結子会社 4 社減少

(内容)

当社の連結子会社 4 社が連結子会社をそれぞれ合併したため、前期末から 4 社減少し 97 社となっております。

2. 平成 16 年 3 月期第 1 四半期の業績概況（平成 15 年 4 月 1 日～平成 15 年 6 月 30 日）

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。また、当第 1 四半期より四半期業績の概況を開示しておりますので、前年同期の金額は記載しておりません。

(1) 経営成績（連結）の進捗状況

	売上高	営業利益	経常利益	当期（四半期）純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
16 年 3 月期第 1 四半期	610,893	87,220	49,702	21,964
15 年 3 月期第 1 四半期				
(参考) 15 年 3 月期	2,565,670	343,095	202,609	97,986

	1 株当たり当期純利益	潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
16 年 3 月期第 1 四半期	5,492.26	
15 年 3 月期第 1 四半期		
(参考) 15 年 3 月期	24,453.48	

[経営成績（連結）の進捗状況に関する定性的情報等]

当第 1 四半期におけるわが国経済は、先行きに対する不透明感を払拭できないまま、低迷した状況が続きました。

そのような状況の中、当社は、「北東北デスティネーションキャンペーン」や「善光寺御開帳」に合わせた営業施策、21 世紀の新しい駅づくり「ステーションルネッサンス」の展開などにより増収努力を重ねるとともに、引き続き事業運営の効率化にも取り組みました。

以上の結果、当第 1 四半期の売上高は 6,108 億円、営業利益は 872 億円、経常利益は 497 億円、当期（四半期）純利益は 219 億円となりました。

(2) 財政状態（連結）の変動状況

	総資産	株主資本	株主資本比率	1株当たり株主資本
	百万円	百万円	%	円 銭
16年3月期第1四半期	6,728,072	992,017	14.7	248,051.81
15年3月期第1四半期				
(参考)15年3月期	6,853,403	981,855	14.3	245,463.20

【連結キャッシュ・フローの状況】

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
16年3月期第1四半期	26,282	106,916	49,173	95,107
15年3月期第1四半期				
(参考)15年3月期	433,304	196,421	310,658	126,478

[財政状態（連結）の変動状況に関する定性的情報等]

当第1四半期の営業活動によるキャッシュ・フローについては、税金等調整前当期純利益を413億円計上した一方、仕入債務が減少したことや法人税等を支払ったことなどにより、流入額は262億円となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローについては、前期に取得した固定資産に係る未払金が減少したことなどにより、流出額は1,069億円となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローについては、配当金を支払った一方、コマーシャル・ペーパーを発行したことや、長期債務が前期末に比べ240億円増加したことなどにより、流入額は491億円となりました。

なお、現金及び現金同等物の当第1四半期末残高は、前期末に比べ313億円減の951億円となりました。

また、当第1四半期末の長期債務残高は4兆1,416億円となりました。

3. 平成16年3月期の連結業績予想（平成15年4月1日～平成16年3月31日）

	予想売上高	予想経常利益	予想当期純利益	1株当たり予想当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
中間期	1,268,000	117,000	58,000	14,502.77
通期	2,560,000	210,000	104,000	26,004.97

上記の業績予想は、当社が現時点で合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は、さまざまな要素により異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

[業績予想に関する定性的情報等]

現時点での業績予想については、平成15年5月13日発表の中間期及び通期の予想に変更はありません。